

# 北方領土返還運動のあゆみ

西暦	年号	主な出来事	西暦	年号	主な出来事					
1945年	昭和20年	8月15日	1951年	昭和26年	10月31日	・北海道議会「千島列島の帰属に関し」決議。				
		8月18日			1952年	27年	4月28日	・対日平和条約発効とともに根室近海のマッカーサーライン消滅、以後日本の危機推定線に変わるが、法的根拠なく、だ捕船が繰出したため安全操業を望む声が出る。		
		8月23日					1953年	昭和28年	8月	・根室地方平和推進経済復興同盟根室市の有力者により結成、北方領土返還までの暫定的な措置として国後島、択捉島、色丹島、歯舞群島の接岸操業を主張。
		9月2日							1954年	29年
	11月1日	10月	・川端北海道水産会長の提案により大日本水産会内に北洋漁業対策委員会設置、安全操業問題につき具体案の検討に入る。							
12月1日	1955年	30年	1月25日	・モロトフソ連外相対日関係正常化の用意ありと声明。						
1946年			21年	2月20日	12月16日	・ドムニッキー在日元ソ連代表首席、鳩山首相に対し日ソ国交正常化に関する文書を手交。				
				4月12日	3月1日	25日	6月28日	・全道漁民大会を札幌市で開催「北方漁業の拡大と千島歯舞群島の返還を決議」政府へ訴える。		
				4月30日	9月11日	12月5日	・千島歯舞群島居住者連盟発足。			
				7月3日	12月5日	・歯舞群島返還受入対策協議会開催。(根室町、歯舞村主催)				
8月6日	1956年	31年	2月21日	・歯舞群島の復帰を計る目的で旧歯舞村に歯舞群島対策委員会を結成。						
8月12日			2月28日	・北海道行政機構内に領土復帰北方漁業対策本部設置。						
8月12日			9月29日	・松本全権、領土問題を含む平和条約締結交渉を外交関係再開後も継続するとの公文をグルムイコソ連外務次官との間に交換。						
8月12日			10月19日	・鳩山首相訪ソ、日ソ共同宣言調印。第9項に「日ソ平和条約締結後に歯舞群島、色丹島を返す」と明記。						
1947年	22年	1月15日	1957年	32年	6月3日	・地域住民の期待を裏切りソ連側のだ捕攻撃ますますはげしく日本政府駐ソ門脇大使を通じグルムイコソ連外相に安全操業の申し入れ。				
		7月22日			8月16日	・ソ連政府、安全操業問題で日本と交渉の用意ありと回答。				
		8月10日			9月28日	・根室市議会「安全操業実現」を決議。				
		8月10日			1958年	33年	3月12日	・根室市議会「北方領土返還及び安全操業実現」を決議。		
7月23日	・千島歯舞群島居住者連盟内閣総理大臣認可の社団法人となる。									
1949年	24年	11月17日	1959年	34年	3月27日	・日ソ友好親善を深める目的で日ソ協会根室支部設立。(事務局根室市役所内、当初70名4年後330名に達する。)				
		12月10日			1960年	35年	1月27日	・駐ソ門脇大使、ソ連外務省にソ連のわが国漁船だ捕措置は不法と通告。		
		2月5日					・グルムイコソ連外相日米新安保条約を非難、在日外国軍隊が撤退せぬ限り歯舞色丹島を引渡さぬと通告。			
1950年	25年	1月20日	1961年	36年	8月14日	・山田外務次官、駐日ソ連大使に対し、1月27日の通告は領土問題につき共同宣言に新しい条件を付し、宣言内容を変更せんとすることは承認できない旨の覚書を手交する。				
		3月13日			8月16日	・昭和33年7月1日設立の「日ソ平和条約締結根室地方近海漁業協定締結促進期成会」を「北方領土対策協議会」に改組。				
		11月7日			8月23日	・ミコヤンソ連第一副首相ら来日。				
1951年	26年	3月5日	1962年	37年	8月16日	・ミコヤン副首相、池田首相にフルシチョフソ連首相の親書を手交、この中で日米安保体制を非難。				
		7月23~28日			8月23日	・貝殻島沖合で大量だ捕事件起きる。(くんぶ船11隻、カニ船2隻計13隻、乗組員32人、内高校生2人が含まれていた。)				
		8月25日			8月26日	・池田首相、フルシチョフ親書に返書、北方領土返還が日ソ平和条約への道であると主張。				
		9月8日			9月1日	・大量だ捕緊急対策陳情団を編成、少年を含むだ捕船員の「即時釈放」「貝殻島周辺での安全操業実現」など6項目を政府関係機関に陳情。				

西 暦	年 号	主 な 出 来 事	西 暦	年 号	主 な 出 来 事	
1961年	昭和36年9月29日	・フルシチョフソ連首相、池田首相に返書、この中で北方領土はすでに解決済であると表明。(9月25日付)	1969年	昭和44年8月5日	・北方領土復帰期成同盟など全国の協力団体とともに北方領土視察及びキャラバン実施。	
	10月30日	・北方地域旧漁業権者等に対する特別措置に関する法律成立。政府、北方地域元居住者等の援護措置として国債10億円を北方協会に公布。		8月23日	・北方領土返還署名百万人突破全国大会札幌市において開催。	
	11月15日	・池田首相、フルシチョフソ連首相に返書、日ソ間の領土問題は未解決である、日本はヤルタ協定に拘束されぬ、国後、択捉両島については日本はなんらの権利をも放棄しないと反論。		8月27~28日	・第5回北方領土墓参実施される。	
	12月15日	・元島民の生活安定をはかる目的で北方協会設立、政府から10億円の融資。		9月1日	・根室市北方領土返還PR映画作成、全道各映画館で上映する。	
1963年	38年1月14日	・日ソ協会根室支部「北方墓参実現署名運動」始める。	1970年	45年2月13日	・北方領土問題をテーマに「道東六市長提携会議」開催、政府に陳情。	
	3月28日	・千島及び歯舞群島返還懇請同盟、北方領土復帰期成同盟と改称(昭和40年4月28日外務大臣認可の社団法人となる。)		4月10日	・北方領土返還を米國務省、国連等に訴えるため、北方領土返還期成同盟会長松本俊一氏、道庁対本部長松崎了介氏ら民間使節団一行4名渡米。	
	6月10日	・モスクワで待望の貝殻島周辺昆布漁の民間協定締結。		8月14日	・根室市、北方領土返還運動推進の一環としてPR冊子「日本の領土、北方領土」旧島民の体験を収録した北方領土終戦前後の記録を発行。	
	6月19日	・昆布船18年ぶりに貝殻島周辺安全操業水域へ出漁。(9月30日まで300隻出漁)		9月23日~25日	・第6回北方地域墓参実施。(勇留島、多奈島、国後島を墓参)	
1964年	39年5月13日	・北方墓参実現署名終了、竹村日ソ協会根室支部長上京してソ連大使館、厚生省、日ソ協会本部へ陳情。	1971年	46年3月20日	・北方領土居住者壮青年連合会設立(構成員は全員引揚者)	
	5月17日	・ソ連政府、歯舞群島及び色丹島所在の日本人墓地への墓参につき応ずる用意があると通告。		9月25日	・「北方領土返還運動根室地域推進委員会」を解散、新たに「北方領土復帰期成同盟根室地方支部」を設置する。支部長に横田根室市長。	
	9月8日	・北方領土関係団体、来道のソ連最高会議議員団セルジック代表らに北方領土返還安全操業の確立を要望。		1972年	47年2月1日	・根室市長、根室市議会議長の連名にて、全国2,680議会(都道府県、市区町村)に対し、北方領土の早期日本返還実現についての決議方を要請。
	40年2月1日	・佐藤首相、コスイギンソ連首相に対し北方領土問題の解決、国後、択捉両島への墓参実現など要請した返書送る。			4月16日	・「望郷の家」開館。(納沙布岬)
1965年	4月1日	・横田根室市長、北方領土問題、安全操業の解決を市政の最重点事項として市の機構を改革、企画課内に領土対策係を新設。	1973年	48年9月20日	・衆議院で「北方領土返還に関する決議案」を各党全会一致で可決採決した。	
	4月28日	・北方領土復帰期成同盟、外務大臣認可の社団法人となる。		9月21日	・参議院で「北方領土返還に関する決議案」を各党全会一致で可決採決した。	
	8月1日	・ソ連政府、歯舞、色丹への墓参を認めると回答。		10月7~10日	・田中首相訪ソ、3日間にわたる日ソ首脳会談終え10日夜日ソ共同声明発表された。	
	8月16~19日	・北方領土返還運動月間実施(8月中)以降毎年8月実施。		1974年	49年8月12~17日	・北対協主催の北方少年交流会が東京で開催され根室管内の少年8名が総理大臣、総理府総務長官、外務大臣、文部大臣に北方領土の現況を訴える。
9月9日	・第2回北方領土墓参実施墓参箇所昨年と同じ。	8月21~23日	・第7回北方領土墓参実施。(多奈島、色丹島、志努島を墓参)			
1966年	9月9日	・中川駐ソ大使、赴任にさきがけ、北方領土の現状視察のため来根。	1976年	51年1月7日	・北方領土、日ソ平和条約締結促進道民大会決議要請団上京、返還促進を要請。	
	12月10日	・北方資料館落成。		5月6日	・北方墓参中止。(ソ連側はパスポート、ビザの携行を要求)	
	41年2月3日	・北海道各地で北方領土返還百万人署名運動はじまる。(千島連盟主体)		7月8日	・根室市北方領土返還要求推進協議会設立総会。	
	2月22日	・初の北方領土資料展札幌市で開く。		9月11日	・宮沢外相現地視察のため来根。	
1967年	6月14日	・北方地域墓参箇所新たに国後島も認めるとソ連回答。	1977年	52年4月15日	・ソ連邦沿岸200カイリ漁業専管水域実施を宣言。	
	8月23~24日	・第3回北方領土墓参実施(墓参箇所として昨年の外に、国後島、古釜布が認められる。)		9月11日	・日ソ漁業交渉に伴う中央陳情団上京。漁業権益の絶対確保及び200カイリ水域問題と領土問題との関連を要望。	
	8月25日	・北方領土日本返還促進決議案を全国の都道府県、市町村議会へ呼びかける。(根室市)		12月10日	・日ソ平和条約締結促進、北方領土復帰実現に関する中央要請。	
	11月30日	・サハリン州ネベリスク市(旧樺太本斗)執行委員会議長から根室市と友好親善を結びたいむねの要請文、根室市長宛に届く。		1979年	54年2月13日	・北方領土の現状を訴える。
12月24日	・根室市長、ネベリスク市議長に友好親善を結ぶむねの返書。	55年8月1日	・北方領土オープン。			
1968年	42年9月4~8日	・第4回北方領土墓参実施、墓参箇所昨年同様。	1981年	56年1月6日	・「北方領土の日」の設定について閣議了解。	
	9月29日	・根室市議会内に「北方領土対策特別委員会」設置。		2月7日	・初の「北方領土の日」記念住民大会開催。	
	11月1~10日	・初の北方領土早期返還促進キャラバン隊、道内47市町村に派遣。(以降毎年実施)		9月10日	・鈴木首相、現職首相として初めて北方領土を空陸から視察。(中山総務長官、原北海道開発庁長官、中川科学技術庁長官同行)	
	43年5月27日	・ノサップ岬に北方領土返還PRガイドを置く。		9月27日	・北方領土返還祈念シンボル像「四島のかげ橋」が納沙布岬に完成。	
1969年	10月31日	・総理府田中総務長官北方領土現地視察のため来根する。(総務長官として初めて)	1982年	57年8月20日	・寺嶋根室市長を団長とする北海道使節団が国連で国際世論喚起のため、渡米。	
	44年3月5日	・色丹島、国後島の転籍届けを元島民が根室市役所に願い出た。		8月22日	・北方領土問題等の解決の促進のための特別措置に関する法律成立。	
	3月14日	・北方領土問題各省連絡会議で国土地理院の地図に択捉島以南を入れる方針決定。		8月22日	・国際親善ノサップ岬健康マラソン大会開催。(北方同盟、北海道、根室市ほか主催)	
	3月18日	・特殊法人「北方領土問題対策協会」設置法案を閣議決定。		58年2月7日	・「北方領土の日」根室管内少年弁論大会開催。(以降毎年根室市で開催)	
1969年	5月22日	・「北方領土問題対策協会法」公布。(法律第34号)	1985年	60年7月27~28日	・北方領土返還祈願望郷ラインサイクリング実施。(羅臼~納沙布間)	
				8月25日	・北方領土返還要求根室管内住民大会開催(望郷の岬公園)三千人集會。	
			1986年	61年8月21~24日	・第9回北方領土墓参実施、11年ぶり再開。(色丹島、水島島を墓参)	

西 暦	年 号	主 な 出 来 事	西 暦	年 号	主 な 出 来 事
1987年	昭和62年8月25 ~28日 11月21日	・第10回北方領土墓参実施。(色丹島、水晶島を墓参) ・貝殻島周辺ウニ漁の日ソの民間協定交渉妥結。	1994年	平成6年4月5日  4月18日	・ボキージン南クリール地区長が根室市に対し北方領土水域での民間協定による漁業協力を提案。 ・ビザなし渡航の特別措置として、銃撃を受け捕された第68由貴丸、能登敬一船長への面会のため親族3名、外務省職員、医師が色丹島アナマに向けて出発。
1988年	63年8月23~26日	・第11回北方領土墓参実施。(色丹島、多楽島14年ぶり、志発島13年ぶり墓参)		4月22~27日	・北方四島からビザなし交流団第1陣70人が来道。(今年度全6陣で342人来道)
1989年	平成元年8月22~ 27日	・第12回北方領土墓参実施。(第1班、国後島、古釜島19年ぶり、第2班、色丹島、多楽島、志発島を墓参) ・「第1回北方領土フォーラム」開催。(以降毎年開催)		5月11~13日	・北方四島、日本側ビザなし渡航実施。(日本からの第1陣48人が訪問。今年度、全7陣で324人渡航)
1990年	2年3月27日 6月14日	・北方領土「四島の開発プラン」表彰式。 ・大矢市長、「ロシア連邦共和国訪問北海道代表団」の一員として訪ソ。		7月4~8日	・初の北隣協主催による、日本側ビザなし訪問実施。(団長大矢根室市長、計45名)
	8月24日~ 9月2日	・第13回北方領土墓参実施。(第1班、国後島乳呑路、泊、志発島を墓参) (第2班、択捉島留別、色丹島を墓参) (第3班、択捉島紗那、薬取を墓参)なお、択捉島は戦後初めての実施。		8月15日	・カニかご漁船第38 貴栄丸の名越憲和甲板員が秋勇留島沖で国境警備隊による銃撃を受け負傷捕される。
1991年	3年4月16~19日	・ゴルパチョフ大統領、ソ連最高首脳として、史上初めて来日。		8月22~24日	・第17回北方領土墓参実施。 (第1班、多楽島フルベツを墓参) (第2班、国後島泊、プニを墓参)
	8月17日	・サハリン州の小中学生及び引率者(計67人)花咲港に入港(四島在住者含む)		8月23~25日	・(第3班、国後島ラシコマンベツを墓参)
	8月22~27日	・第14回北方領土墓参実施。 (第1班、色丹島ノトロ、択捉島薬取、別飛、内保を墓参) (第2班、国後島植内、歯舞群島勇留島トコマを墓参) (第3班、国後島東佛沸を墓参)		8月31~9月2日	・(第4班、色丹島チボイ、択捉島年駒、紗那を墓参)
1991年	3年8月26日	・外務省ソ連課長による日ソ交渉経過説明会。		10月4日	・根室東方沖でマグネチュード7.8の地震が発生。釧路、根室地方はもとより北方四島も甚大なる被害を受ける。(北海道東方沖地震)
	10月14日	・モスクワでの中山、パンキン外相会談でビザなし渡航合意。		10月6日	・カレイ刺し網漁船第68 宝来丸が秋勇留島沖で国境警備隊による銃撃を受け沈没浅井雄一船長他2名が捕される。
	11月17~23日	・大矢市長、「北方領土総合理解促進対話、交流使節団」副団長として訪ソ。		10月15~17日	・北方領土返還要求運動連絡協議会(北連協)が北海道東方沖地震で被災した北方四島在住ロシア人を救済するため「北方領土島民救済委員会」を設置。
	12月3~5日	・ロシア、ソビエト連邦社会主義共和国ロシアテレビ公社が北方領土問題取材のため来根。		10月23日	・政府、北海道、民間団体による北方領土への人道支援訪問団が根室港を出港(国後島、色丹島、択捉島を支援)
1992年	4年4月1日 4月22日~27日	・根室市役所に国際交流課新設。 ・北方四島在住島民、ロシア側ビザなし交流団花咲港に歴史的な第1歩。(第1陣19人が来道今年度、全6陣で268人が来道)	1995年	4月23~28日	・ロシア北方四島行政関係者6人がビザなし訪問。(花咲港に入港)
	5月11~17日	・北方四島への日本側ビザなし渡航実施。(日本からの第1陣45人が国後島、色丹島、択捉島を訪問。今年度、全6陣で268人渡航)		5月6日	・北方四島からビザなし交流団第1陣73人が来道。(今年度全7陣で426人が来道)
	5月30日	・根室市北方領土返還要求推進協議会会長に河原勝治氏選出。		5月19~23日	・ロシア国境警備隊に逮捕、拘留されていた第58 海栄丸の久保田金蔵船長と第83 金徳丸の寺沢則昭漁労長が釈放。これにより、ロシアに拘留されている日本人は約2年ぶりにゼロとなる。
	8月19日	・第1回北方領土問題教育指導者研修会開催。(以降毎年開催。)		6月7日	・北方四島、日本側ビザなし渡航実施。(日本からの第1陣46人が訪問。今年度全8陣で371人渡航)[平成7年度より国会議員が訪問団顧問として参加、第1陣に鈴木宗男衆院議員、坪井一字参院議員が参加した]
	8月22~26日	・第15回北方領土墓参実施。 (第1班、択捉島年駒、紗那を墓参) (第2班、色丹島斜古丹、多楽島フルベツを墓参)		7月5~7日	・衆参両院の沖縄及び北方問題に関する特別委員会が北方領土問題の解決促進に関する決議を採決。
	9月9~16日	・(第3班、国後島乳呑路を墓参)		7月15~16日	・平成7年度第1回の政府人道支援物資が出港。(国後島、色丹島を支援)
	9月12~14日	・(第4班、国後島マンサカリ、中の古丹を墓参)		8月6日	・ロシア、イズベスチヤ紙のオットーラツィス論説委員が北方領土問題取材のため来根。
1993年	5年2月7日	・北方領土の日啓発無線通信事業開催。		8月13~18日	・北方領土返還要求現地根室大会並びに根室市民のつどい開催。(50年大会・市中パレード実施)
	4月22~26日	・北方四島からビザなし交流団第1陣46人が来道。(今年度、全8陣で406人が来道)		8月22~25日	・第18回北方領土墓参実施。 (第1班、択捉島別飛、留別、国後島近布内、植沖を墓参)
	5月14~16日	・北方四島、日本側ビザなし渡航実施。(日本からの第1陣47人が国後島、色丹島、択捉島を訪問。今年度、全9陣で418人渡航)		8月26~29日	・(第2班、国後島東佛、乳呑路を墓参) ・(第3班、多楽島フルベツ、色丹島相見岬を墓参)
	8月22~25日	・第16回北方領土墓参実施。 (第1班、志発島西浦泊を墓参) (第2班、国後島泊を墓参)		9月8日	・ロシア連邦院国際問題委員会一行(7名)が来根、北方領土を視察。
	9月3~7日	・(第3班、択捉島留別、別飛、色丹島アナマを墓参)		9月10日	・北方四島物語者記追悼50周年祭開催。
	9月8~9日	・(第4班、国後島植内、ニキシロを墓参) (第5班、水晶島秋味場を墓参)		10月5日	・平成6年10月の北海道東方沖地震による人道支援の一環として色丹島に建設中の仮設診療所が完成。
	10月8日	・北方領土返還要求署名運動6千万人達成。		8年1月22日	・ロシア北方四島行政関係者6人がビザなし訪問。(花咲港に入港)
	10月11日	・エリツィン大統領来日。		3月25日	・根室市が元島民の手記による北方領土50年史を発刊。
	10月12日	・「東京宣言」「経済宣言」に日口首脳が調印、北方領土問題については交渉対象として四島の名前が明記された。		4月3日	北方水域操業自粛ラインが1977(昭和52年)の2百カイリ暫定措置法の施行に伴う旧ラインの設定以来19年ぶりに改定される。
	11月26日	・カレイ刺し網漁船第68 由貴丸の能登敬一船長が、納沙布岬で国境警備隊による銃撃を受け左足を負傷、捕される。	1996年		
1994年	6年1月9日	・ロシア北方四島行政関係者7人がビザなし訪問。(花咲港に入港)			
	1月26~27日	・北千島、セベロクリリスク市の代表団来根、根室市との姉妹都市提携に調印。			

西 暦	年 号	主 な 出 来 事	西 暦	年 号	主 な 出 来 事	
1996 年	平成 8 年 4 月 18 日 ～ 23 日 5 月 25 日～ 27 日	・ 北方四島からビザなし交流団第 1 陣 69 人が来道。(今年度、全 6 陣で 413 人が来道) ・ 北方四島、日本側ビザなし渡航実施。(日本からの第 1 陣 48 人が訪問。今年度、全 9 陣で 422 人渡航)	1997 年	平成 9 年 12 月 15 日	・ 北方四島人道支援の一環として建造中の自航式はしけ「希望丸」(80 トン)が完成。(引渡式は 2 月 2 日)	
	6 月 21 日	・ 「北方地域旧漁業者等に対する特別措置に関する法律の一部を改定する法律案」が通常国会で可決され、これにより元島民と旧漁業者に限られていた北対協資金の融資資格が、一定の要件を満たして生前継承の手続きをとることによって、子供や孫にも適用されるようになる。(10 月 1 日施行)		12 月 30 日	・ 北方四島周辺海域での日本漁船操業枠組み交渉第 13 回協議が妥結し、協定文書の合意内容を確認する覚書に日ロ両国代表が調印。	
	7 月 23 日	・ チジョフ駐日ロシア大使が来根、北方領土を視察(駐日大使の来根は 33 年ぶり)		10 年 1 月 22 日	・ 平成 9 年 11 月のクラスノヤルスク合意を受けた初の日ロ外務次官級協議がモスクワで開催、両国外相を委員長とする「平和条約締結問題日ロ合同委員会」を設置することで合意、また、ロシア側は北方四島の共同経済活動を提案。	
	8 月 20 日	・ 日本の人道支援の一環として色丹島アナマに建設中の小学校が完成。		2 月 7 日	・ 北対協及び根室市、北方領土啓発ホームページを開設。 ( <a href="http://www.hoppou.go.jp">http://www.hoppou.go.jp</a> )	
	8 月 25 日～ 9 月 1 日	・ 第 18 回北方領土墓参実施。 (第 1 班、国後島古釜布植留内を墓参) (第 2 班、択捉島内保、紗那を墓参) (第 3 班、志発島カフェノツ、色丹島稲茂尻を墓参) (第 4 班、国後島古丹消、勇留島トコマを墓参)		2 月 21 日	・ 小淵外相訪ロ、モスクワで北方領土周辺水域における日本漁船の安全操業協定に調印。	
	10 月 1 日	・ 根室市内の漁船(第 52 多喜丸、第 28 昭久丸)が操業中に銃撃を受け、船長が負傷する。		4 月 1 日	・ 根室市、構造改革で北方領土対策室を新設。	
	10 月 12 日	・ 「北方地域旧漁業者等に対する特別措置に関する法律の一部を改正する法律」施行。		4 月 17 日	・ 政府、北方領土へのビザなし渡航者を制限していた 1991 年 10 月の閣議了解を変更し、従来の渡航対象者に加え「学術・文化・社会等の各分野の専門家」も対象とする事を決定。	
	1997 年	9 年 3 月 6 日		・ 根室市内のサンマ漁船がロシア国境警備隊の臨検を受け、乗組員 5 名が逮捕される。根室海峡における日本漁船の逮捕は 1994 年 10 月 4 日以来。(平成 6 年)	4 月 18～19 日	・ 静岡県・川奈で日ロ非公式首脳会談開催。日ロ平和条約について「東京宣言に基づき、北方四島の帰属問題の解消を内容とし、21 世紀に向けての日ロ友好協力の原則を盛り込んだものとなるべき」との考えで一致。
		3 月 25 日		・ エリツィン・ロシア大統領が年次教書を発表し、北方領土の日ロ共同開発を含むあらゆる面で日本との協力を進める用意があることを表明。	4 月 24 日	・ 「北方領土登記訴訟」の原告で元島民(水晶島出身) 舩海喜一郎氏が死去、94 歳。
		4 月 24 日		・ 歯舞群島・水晶島にある所有地の登記内容変更を法務局に却下された根室市の元島民舩海喜一郎氏が却下取消を求めた「北方領土登記変更訴訟(舩海訴訟)」の判決で、釧路地裁は「北方領土内の土地は登記の対象であり、登記官が現地調査できなくても権利変動の登記を受け付けることができる」として、法務局側に却下取消を命じる(法務局側はこの判決を不服として 4 月 7 日に札幌高裁に控訴、現在も係争中)	5 月 15～20 日	・ 北方四島からビザなし交流団第 1 陣が来道。(今年度、全 9 陣、内道内 6 陣)
		4 月 23～28 日		・ ブルプリス・ロシア国会議員が来根、北方領土を視察。	5 月 17～20 日	・ 北方四島、日本側ビザなし渡航実施。(日本からの第 1 陣が訪問。今年度、全 12 陣)
		5 月 19～23 日		・ 北方四島からビザなし交流団第 1 陣が来道。(今年度全 8 陣)	6 月 4～8 日	・ 第一回北方四島墓地現地調査(国後島)
5 月 19～23 日		・ 北方四島、日本側ビザなし渡航実施。(日本からの第 1 陣が訪問。今年度、全 11 陣)	6 月 18～22 日	・ 第二回北方四島墓地現地調査(色丹、多楽、秋勇留島)		
6 月 6～7 日		・ 堀達也北海道知事が北方領土を訪問。	6 月 23 日	・ 政府人道支援による国後島・古釜布桟橋改修の目録贈呈として初めて国後・択捉島を訪問。		
6 月 25 日		・ 「日ロ友好と北方領土」討論会出席のため、アレクサンドル・パノフ駐日ロシア大使と孫崎享北海道担当特命全權大使が来根。	6 月 26 日	・ 歯舞群島・水晶島沖で歯舞漁業所員のサケ・マ流し網漁船(乗組員八名)がロシア国境警備隊に逮捕される(7 月 1 日釈放され、帰港)		
8 月 25～28 日		・ 納沙布岬沖合の日ロ中間ライン付近で操業中のカレイ刺し網漁船・第 63 栄幸丸がロシア国境警備隊の銃撃を受け、乗組員 2 名が負傷。	6 月 29 日	・ 東郷和彦外務省総括審議官が来根。		
8 月 27 日		・ 第 19 回北方領土墓参実施。 (第 1 班、択捉島年輪・別飛) (第 2 班、色丹島ノトロ、志発島西浦泊)	7 月 10 日	・ 歯舞群島・水晶島沖のロシア主張領海内で根室のサンマ受け漁船(乗組員一名)がロシア国境警備隊に逮捕される(7 月 13 日釈放)		
8 月 30 日～9 月 1 日		・ 日本側訪問団が根室港を出港、今後は日本側訪問団に限り根室港からの出入港が認められる。	7 月 21 日	・ 北海道に事業、北方四島交流施設が市内穂香で着工される。		
9 月 30 日		・ 第 19 回北方領土墓参実施。 (第 3 班、国後島泊) (第 4 班、国後島東浜、水晶島茂尻消・秋味場)	7 月 27 日	・ 「北方領土登記訴訟」の原告の舩海喜一郎氏が 4 月に死去したことに伴い、原告弁護団が長男の訴訟継続を札幌高裁に申し立てる。		
11 月 1～2 日	・ 丹波渡外務省審議官が第 6 回ビザなし訪問団に同行、外務省高官の北方領土訪問は初めて。	10 年 8 月 4 日	・ ビザなし渡航による日ロ双方の訪問者数が、平成 4 年 4 月の実施以来 5 千人を突破する。			
11 月 13 日	・ ロシアのクラスノヤルスクで日ロ非公式首脳会談が行われ、「1993 年の東京宣言に基づき 2000 年までに平和条約を締結するよう全力を尽くす」ことで合意。	8 月 17～31 日	・ 第 21 回北方領土墓参実施。 (第 1 班、択捉島留別・葉取) (第 2 班、色丹島アナマ、志発島カフェノツ、多楽島フルベツ) (第 3 班、国後島礼文磯、白糠泊)			
12 月 15 日	・ 日ロ定期外相会談で、小淵・プリマコフ両外相が日ロ平和条約締結に向け両外相を加えた交渉グループを新たに設置することで合意。	8 月 17～20 日	・ 政府、ビザなし交流で 99 年度から教員、地質学者を派遣し、専門家交流を大幅に拡大する方針を決定。			
			11 月 11～13 日	・ 小淵首相ロシアを公式訪問、エリツィン大統領と会談し、国境確定委員会及び共同経済活動委員会の設置、元島民の北方四島への自由往来などで合意。また、両首脳は「モスクワ宣言」に署名し、クラスノヤルスク及び川奈合意に基づき「2000 年までの日ロ平和条約締結に全力を尽くすとの決意」が日ロ間の公式文書で初めて確認される。		
			11 年 1 月 18 日	・ 根室と国後島間に設定されていた通信用「改定ケーブル」の一部引き揚げられた。		
			5 月 4 日	・ 太田誠一総務長官は北方領土視察。		
			5 月 21～24 日	・ 北方四島、日本側ビザなし渡航実施。(日本からの第 1 陣が訪問。今年度、全 16 陣)		

西 暦	年 号	主 な 出 来 事	西 暦	年 号	主 な 出 来 事	
1999年	平成 11年 5月 26日	・藤原市長「ビザなし交流訪問団团长」としてビザなし交流に初参加。	2001年	平成 13年 7月 1日	・北方領土啓発施設「北方館」の入館者が1千万人を達成。	
	6月 3～8日	・北方四島からビザなし交流団第1陣が来日。(今年度全8陣、うち来道5陣)		8月 1日	・尾身沖縄・北方対策担当大臣が北方領土を視察する。	
	6月 9～15日	・第1班北方四島墓地現地調査(国後島、色丹島)		8月 21～22日	・第24回北方領土墓参実施。	
	6月 30日～7月 7日	・第2班北方四島墓地現地調査(択捉島)		8月 27～30日	(第1班 色丹島年萌、トカリス、わかへッ)	
	7月 29日	・「北方領土・国後島『爺爺岳』専門家交流訪問団」出港。		9月 1～3日	(第2班 色丹島相見崎、志勇島加エツ)	
	8月 6日	・「択捉島ラッコ専門家交流訪問団」出港。		9月 5～7日	(第3班 国後島植沖)	
	8月 25～28日	・第22回北方領土墓参実施。		8月 26日	(第4班 国後島アニ、オミ)	
	8月 30日～9月 1日	(第1班 択捉島紗那、フレシコタン)		9月 10日	・北方領土返還促進根室市民会議の設立総会が開かれる。	
	8月 30日～9月 2日	(第2班 色丹島キリトウシ、国後島父吾路)		9月 27日	・仲村内閣府副大臣が北方領土を視察する。	
	9月 11～12日	(第3班 国後ニキシロ、近布内)		10月 21日	・北方領土返還要求運動に尽力した「末次一郎氏を偲ぶ会」が納沙布岬の四島のかげ橋で行われる。	
	10月 20日	(第4班 多楽島ヒラリウス、水晶島秋味場)		11月 27日	・上海APEC首脳会議に際し、日口首脳会議が行われ、「双方が前提条件を付けずに歯舞・色丹の議論と国後・択捉の議論を同時かつ並行的に進めていく」との分離・並行協議で基本合議する。	
	10月 24日	・北方領土返還要求全国キャラバンの東日本コースが根室氏役所前から出発する。		2002年	14年 1月 16日	・「参議院沖縄及び北方領土問題に関する特別委員会」に藤原市長、嶋津議長、波多議員が出席し、北方領土未解決が及ぼす地域振興の阻害を訴え、特別交付税の省令改正など財政支援を要請する。
	11月 1日	・国後島古釜布に緊急避難所兼宿泊施設「日本人とロシア人の友好の家」が完成。現地で行われる。			5月 25日	・能代内閣府副大臣が北方領土を視察する。
	12年 2月 7日	・道立北方四島交流センターの愛称が「ニ・ホ・ロ」に決定する。			8月 23日	・尾身沖縄・北方対策担当大臣が北方領土を視察する。
	2月 20日	・道立北方四島交流センターがオープンする。			8月 23日	・外務大臣としては14年ぶりに川口外務大臣が北方領土を視察する。
4月 21日	・北方領土フォーラム「新世紀を超える北方四島の将来」が北方四島交流センターで開催。	8月 27～30日	・第25回北方領土墓参実施。			
5月 12日	・根室市南沖の日本200海里内で宮城県漁船がロシア警備隊に銃撃され、逮捕される。	9月 1～3日	(第1班 台風のため中止)			
5月 24日	・統訓弘総務庁長官が北方領土を視察。	9月 5～7日	(第2班 色丹島ノトコ、勇留島トコマ)			
5月 28日	・「国後シマフクロウ専門家交流訪問団」(日本側)が国後島でシマフクロウの生態調査をおこなう。	9月 20日	(第3班 国後島泊)			
6月 18日	・羅臼町のタラ漁船が択捉島西側でロシア国境警備隊に逮捕される。	9月 20日	(第4班 国後島中ノ古丹、オノサリ)			
8月 9日	・「北方四島・海獣類と鳥類専門家交流訪問団」が発出する。	2003年	1月 14日		・北方四島交流センターの入館者数が10万人を達成。	
8月 9日	・第23回北方領土墓参実施。		3月 25日		・参院・沖縄及び北方領土に関する特別委員会一行が北方領土を視察する。	
8月 23日	(第1班、国後島古丹消、ハツチャス)		5月 11日		・北方領土返還・四島交流促進議員連盟が発足する。	
8月 24日	(第2班、国後、択捉、濃霧で上陸断念、船上で慰霊祭を行う)		6月 20日		・根室ロシアフェスティバル2003が北方四島交流センターで開催される。	
9月 3日	(第3班、択捉入里節、グヤ、国後植内)		7月 4日		・内閣法制局の山崎参事官が北方領土を視察する。	
9月 3日	(第4班、色丹稲茂尻、秋勇留オタモイ、志勇西浦泊)		7月 29日～8月 1日		・北方四島自由訪問で戦後初めて国後島の瀬石を訪問する。	
9月 14日	・森田一運輸大臣、北海道開発庁長官が北方領土を視察。		8月 26～28日	・第26回北方領土墓参実施。		
9月 14日	・羽田孜幹民民主党幹事長がビザなし交流に首相経験者として初めて参加。		8月 30日～9月 2日	(第1班 択捉島別飛、ベケンリタ、オダイベケ)		
9月 14日	・ブーチン・ロシア大統領が来日。日口首脳会議が開かれる。領土問題解決による日口平和条約の締結について交渉継続するとした共同声明を発表。		8月 31日	(第2班 国後島植内)		
9月 14日	・統訓弘総務庁長官がビザなし交流に参加。		9月 18日	・高橋はるみ北海道知事が北方領土を視察する。		
10月 1日	・「北方四島返還要求国民集会 in NEMURO」が納沙布岬の望郷の岬公園で行われる。		11月 22日	・第26回北方領土墓参実施		
10月 1日	・「衆議院の沖縄及び北方問題に関する特別委員会」に藤原根室市長ら3人が意見陳述。		12月 15日	(第3班 国後島礼文磯、乳舌路)		
11月 15日	・全国の北方領土返還要求運動都道府県民会議、北方領土元居住者らを対象にした「北方領土返還要求運動関係者特別集会」が北方四島交流センターで開催される。		12月 20日	(第4班 色丹島アナマ、歯舞群島水晶島秋味場)		
11月 27日	・橋本沖縄・北方対策大臣が北方領土を視察する。		2004年	16年 7月 14日	・細田博之沖縄及び北方対策担当大臣がビザなし交流に参加。国後島を訪問する。	
13年 2月 17日	・森首相とブーチン・ロシア大統領による日口首脳会議がロシア・イルクーツク市で行われる。			7月 28～30日	・市立根室病院で北方四島人道支援択捉患者を受け入れる。	
3月 25日	・森首相が北方領土を視察。現職総理としての視察は20年ぶり。	8月 2～5日		・千島歯舞諸島居住者連盟根室管内青年部連絡協議会が設立される。		
4月 7日	・千島歯舞諸島居住者連盟根室支部青年部の設立総会が開かれる。	8月 25～28日		・茂木敏充沖縄及び北方対策担当大臣が北方領土を視察する。		
4月 14日	・ビザなし交流の新規事業「日本語習得研修」に参加するため北方四島在住ロシア人10人が来根。	9月 2日		・野村在ロシア特命全権大使が北方領土を視察する。		
5月 17日	・北方四島への人道支援の一環として、日本政府が色丹島へ供給する自航式はしけ「友好丸」が完成し、進水式が行われる。	9月 17日		・衆院沖縄及び北方問題に関する特別委員会一行が北方領土を視察する。		
6月 2日		9月 23日		・第27回北方領土墓参実施。		
		11月 7日		(第1班 国後島古釜布、東沸)		
				(第2班 択捉島留別、ボンヤリ)		
				(第3班 色丹島斜古丹、国後島白糠泊)		
				(第4班 悪天候のため中止)		
				・小泉首相が洋上から北方領土を視察。現職総理としては3人目。		
				・参議院沖縄及び北方問題に関する特別委員会一行が北方領土を視察する。		
				・民間団体としては初めて連合が主体のビザなし訪問が行われる。		
				・小池百合子内閣府特命担当大臣(沖縄及び北方対策担当)が北方領土を視察する。		

西暦	年号	主な出来事	西暦	年号	主な出来事
2005年	平成17年2月8日	・参議院沖縄及び北方問題に関する特別委員会に藤原市長が出席する。			
	2月下旬	・択捉島ギドロストロイ水産加工場火災。			
	3月20日	・公明党「北方領土返還要求実現大会」を根室市において開催する。			
	3月26日	・自民党「北方領土研修会」を根室市、釧路市において開催する。			
	5月22日	・七条内閣府副大臣が北方領土を視察する。			
	5月30日	・高橋はるみ北海道知事がピザなし交流に参加。国後島、択捉島を訪問する。			
	7月7日	・小池百合子内閣府特命担当大臣(沖縄及び北方対策担当)がピザなし交流に参加。国後島、択捉島を訪問する。			
	7月9日	・北方セカ村合同模範議会在が北方四島交流センターで開催される。			
		・第28回北方領土墓参実施。 (第1班 悪天候のため中止) (第2班 択捉島内保、ウエンパフコツ) (第3班 志努島カフェノツ) (第4班 国後島ニキシロ、近布内、瀬石)			
	8月2～4日				
	8月27～29日				
	8月31日～9月3日				
	8月28日	・8.28 北方領土返還要求運動 IN 根室が北方四島交流センター特設会場で開催される。			
	9月11日	・第一回北方領土まで歩こう会が開催される。			
	9月25日	・「北方領土返還要求運動60年国民集会 in NEMURO」がノサップ岬の望郷の岬公園で行われる。			
	9月26日	・祈りの火採火・分火式が開催される。			
	10月19日	・北方領土朗読会「四島を追われて」が根室市総合文化会館で開催される。			
	11月3日	・北方海域における安全操業で初の漁船だ捕。			
	11月21日	・プーチンロシア大統領が来日。日口首脳会談が開かれる。北方領土問題の具体的進展はなく共同声明作成もみおくられた。			
	12月2日	・根室市内の関係団体による北方領土返還要求運動再構築懇談会が開催される。			